
9月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下10農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援係の取組～



岐阜県農政部農業経営課

9月の普及活動状況ダイジェスト版

活力ある新産地づくり

西濃農林■ブロッコリー 定植作業進む

管内のブロッコリーは、各部会で定植が順次行われており、9月末時点で約40%の面積(大垣部会4.6ha、不破部会3.2ha、安八部会1.2ha)で定植が終了した。

農業普及課では、苗が小さいほ場に対して液肥の散布を指導している。

また、今年度から栽培を始める海津市の生産者が、9月5日から定植作業を始め、株間の設定、マルチ穴を土でふさぐこと、苗の選び方など定植時の留意点を指導している。

中濃農林■円空さといも 円空さといも産地振興プロジェクト

円空さといもの生産から販売までの一連の対策・振興を行う円空さといも産地振興プロジェクト推進委員会が9月27日に開催された。当日は、生産拡大・販路拡大・加工品開発・消費拡大の各プロジェクトの進捗状況及び今後の活動方向について検討が行われた。今年度は、特に、円空さといも料理コンテストの開催や円空さといも指定店制度を実施することとしている。

農業普及課では、各プロジェクトに関わって総合的な支援を行い、円空さといもの産地振興を図っていく。



【円空さといも産地振興プロジェクト推進委員会の様子】

東濃農林■ブロッコリー 実証圃の定植が終了

管内では、地産地消を基本とするブロッコリーの産地づくりに取り組んでいる。

農業普及課では、実証圃を多治見・瑞浪・土岐の各市1か所ずつ設置し、長期出荷に向けた品種の組み合わせと作型の確立に向けた支援を行っている。

今年、農業普及課で新たに作成した栽培指針に基づき、7月24日～8月22日にかけて播種した早生～中晩生品種の苗は、高温傾向であったにも関わらず順調に育ち、8月21～9月18日に定植を行うことができた。

また、最も多くの面積を栽培している(有)甘原ええのおでは、今年度導入した野菜移植機によりブロッコリー苗を定植し、その作業効率の高さを確認することができた。

産地づくりの取組は2年目となるが、地域でのブロッコリー栽培が確立し、地元量販店や直売所で長期間安定した販売ができるよう今後も支援を続けていきたい。



【移植機によるブロッコリー定植作業】

恵那農林■ブロッコリー ブロッコリーの出荷が迫る

本年度恵那地区の5つの生産組織で取り組むブロッコリーが、収穫適期を迎えたことから、9月27日にJAひがしみの出荷目揃え会を恵那市岩村町の富田営農作業場で開催した。

当日は30名近い生産者が参加した。目揃え会では、全農岐阜やJAひがしみのから出荷規格や品質基準を説明した後、ブロッコリー研究会長が実際の出荷調整方法を実演した。農業普及課からは、適期収穫に向けての注意点や、ヨトウムシ等の害虫の発生状況に応じて薬剤を散布する点など、今後の栽培管理について説明した。特に、新規生産者が理解しやすいよう留意して行われた。



【出荷に備えるブロッコリー生産者】

10月以降は、週3回(月水金)の出荷日にあわせて出荷作業が行われる。農業普及課では、出荷基準が守られ、品質の揃ったブロッコリーが出荷されるよう、生産者を支援していく。

売れる農畜産物づくり

揖斐農林 ■ 柿 西村早生柿の出荷始まる

西村早生柿の出荷が9月7日から始まった。今年は、少雨の影響で小玉傾向であるが、甘果率が約80%と平年に比べて高い。また、出荷数量は、着果が良好であることから前年の約3倍となっている。

農業普及課では、農業経営課と連携し、着色調査や目揃え会での情報提供を行うなど適期収穫等への支援を行っている。



【高品質な柿を目指して目揃え会】

可茂農林 ■ 夏秋トマト トマト試食販売で産地PR

「美濃白川夏秋トマト産地戦略会議」(JAめぐみの、白川町、東白川村、美濃白川夏秋トマト部会、農林事務所で構成)の取組の一環として、9月15日に大垣市内の量販店でトマト部会女性部が、本年2回目のトマト販売促進PR活動を行った。

PR活動では、白川地域のトマトの試食と産地の特徴などの情報提供によりイメージ向上を図った。今年は、平均単収が8t/10aを超え、部会始まって以来の最高収量となる見込みで、これまでに増して活気のあるPR活動となった。

農業普及課では、消費者に産地の状況を伝えるなど、PR活動を支援した。



【試食販売PR風景】

多様な担い手の育成・確保

岐阜農林 ■ 新規就農者等 岐阜地域農業担い手情報交換会開催

岐阜地域の農業の担い手育成確保を目的に農業担い手情報交換会を開催(主催:県農業担い手リーダー各団体、岐阜農林事務所等)し、新規就農者のほか市町、農協等関係機関や指導農業士等73名が参加した。花き生産者による「やる気を出させる農業経営」と題した講演のほか、新規就農者等3名の事例発表、新規就農者(5名)及び農業研修生(19名)が今後の抱負を発表した。

農業普及課では、これまで、この会が円滑に行われるよう、各団体との調整を行ってきた。今後も引き続き関係機関が連携して、農業の担い手育成確保に向けて支援を行う。



【抱負を語る研修生】

郡上農林 ■ 郡上市北部地域 産地づくりと担い手育成に係る現地検討会

郡上地域で取り組んでいる農林産物の産地づくりと担い手育成について、農林業者の声を直接聞きながら今後の課題を検討することを目的として、農林事務所では、8月31日に地元選出の県議会議員と郡上市長とともに現地検討会を行った。

当日は、森林づくりプロジェクト、にんじんの6次産業化等の法人経営、夏秋いちご生産、牛乳・乳製品づくり、農産加工品づくり、農産物直売所の状況について現地で生産者等と意見



【延年屋による農産加工品づくりの視察】

交換を行った。

近年の農林産物価格の低迷が課題となっていることや、それに対して商品の開発や販路の開拓に取り組んでいることなど、情報共有を図ることができ、今後の農林業振興につながる検討会となった。

下呂農林 ■人・農地プラン アンケート結果をもとに意見交換

下呂市では、人・農地プランに関する住民アンケートを門和佐、和佐の両地区で行い、その結果をもとに、今後の地域農業、集落環境をどのような方法でまとめていくのか、具体的な意見の集約を始めた。

9月24日には、門和佐地区の中心的農業者とJA、市、農林事務所の担当者との意見交換を行い、農地集積や後継者育成について本音で語り合った。



【門和佐地区意見交換会】

飛騨農林 ■高校教諭と語る会 高校教諭らと飛騨の農業を語る

飛騨農林事務所では飛騨高山高等学校と、飛騨の農業を語る会を開催した。

この会は、飛騨地域の農業の現状や高校の果たす役割及び技術情報などについて意見交換し、農業教育の充実を図ることで担い手育成の教育効果を上げることを目的に年1回開催している。

当日は、高山市内を会場に、新しくできたトマト選果場（漆垣内町）と、新しく県外から移住してトマト栽培を始めた加藤夫妻のハウス（丹生川町）を視察した。

参加した高校教諭からは、現場の声を生徒指導に活かしたいとの声があった。また、農林事務所の職員からは、さらなる新規就農に向けた研修等の受け入れ態勢整備や、ハウスなど施設への助成の必要性について再認識したとの声があった。



【視察先の加藤夫妻ハウスにて】

農業経営課 ■就農希望者 岐阜県図書館内に「就農」に関する情報コーナーを設置

岐阜県図書館と連携し、9月12日から県図書館内に「就農」に関する情報コーナーを設置した。県図書館内には仕事・資格の本や仕事に関する県のチラシを集めた「夢チャレンジコーナー」がある。

このたび、このコーナーに、農業に興味がある方へ就農情報を提供するため、就農に関する本や、「岐阜で農業をはじめには」などのチラシをまとめて展示した「就農コーナー」を設置した。就農情報が満載なこのコーナーを多くの方にご活用いただき、就農に向けた一助となることを期待したい。



【就農コーナーを設置】